

◆マリンカレッジ

国頭地域における水産教室への取り組み (未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業)

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人・仲盛 淳
国頭漁協 村田佳久・池原喜啓

1. 目的および経緯

国頭漁協では100名の組合員が所属しており、各漁業者は主に潜水器、延縄、一本釣り、刺網定置網など漁船漁業に従事している。国頭村の1次産業の中でも、特に水産業の従事者が減少していたことから、その現状を改善するため、地域の水産業や水産物について関心・理解を深め、消費を拡大する取り組みが課題となっている。

本取り組みは、国頭漁協青・壮年部が主体となり、未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業を活用して行った。対象は地元の小・中学生が主で、定置網や漁業を体験し、自ら漁獲した魚を捌き・調理することを通して、地域の水産業について関心や理解を深め、魚食普及の推進を目的に実施した。

2. 活動内容

日時：平成28年7月29日、
平成28年8月13・20日
場所：漁業体験 与那地先（定置網）
調理体験 国頭漁協加工所およびみ

など食堂

対象：国頭村郷友会北斗会（21名）、く
がみ学童クラブ（18名）

講師：国頭漁協 組合員10名

内容：定置網漁業体験を行い、自分達で獲
った“いまいゆ”を捌き（3枚おろ
し）、調理する。

3. 今後の課題

本取り組みは、国頭漁協青壮年部の漁業者10名が講師を務め、魚を獲る体験から調理・実食までの一連の流れを学ぶ水産教室を展開しており、意義深い取り組みであった。また、参加した児童・生徒側も、早朝より出航して自ら網を手繰り寄せ、袋網から魚をすくい出す等、普段は経験できない貴重な体験との声が多数寄せられた。国頭漁協では、平成23年度に23年ぶりに復活させた定置網を軸とした漁業・地域振興を推進している。今後も、地域水産業の担い手確保や地産地消に繋がるよう取り組みを継続・発展させていくことが望まれる。



定置網の概要について説明する大嶺組合長（左）と実際に網を手繰り寄せる生徒達（右）



袋網から魚をすくい出す生徒（左）と魚の捌き方を教える青壮年部メンバー（右）



調理体験後の盛り付け（左）と試食（右）の様子